

# 令和5年度 自己評価結果公表シート

豊中みどり幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- 心身ともに、たくましく元気な子どもに
- 思いやりのある、あたたかい心の子どもに
- よく考え、判断し、行動できる子どもに
- 幅広い経験に意欲を持って取り組み、やり抜く子どもに
- 自分の感じたことを豊かに表現できる子どもに

## 2. 5年度重点的に取り組む目標や計画

### 1. 業務の分担、効率化をはかる

昨年から実施している保育後のスケジュールの可視化を時間や内容をより具体化するように改善する。

### 2. 造形活動からみる子どもの姿を通して、子ども理解を深める

12月中旬に「保育造形研修大会」を実施することを目標とし、月に1回有識者の先生方と子どもの造形活動から子どもの姿をみて子ども理解や環境構成、援助の仕方などを一緒に考える。

### 3. 防犯設備や意識の向上

社会情勢を鑑み、不審者への対応や園バスへの置き去り、安全管理等、防犯面のセキュリティを高めるとともに、職員や子どもへの安全・防犯意識の向上、啓蒙を行う。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 業務の分担、効率化をはかる 昨年から実施している保育後のスケジュールの可視化を時間や内容をより具体化するように改善する。	時間や内容を具体的に記載することで、学年や自分のやるべきことに見通しをもち、時間も効率的に進められた。また、可視化し、掲示することで、他学年の保育者の様子も知ることができ、刺激になった。 職員で業務効率化に向けて今年のスローガンを立て、共有することで、周知ができ、みんなで意識して取り組めるようになった。
2. 造形活動からみる子どもの姿を通して、子ども理解を深める 月に1回有識者の先生方と子どもの造形活動から子どもの姿をみて子ども理解や環境構成、援助の仕方などを一緒に考えることで、子どもをみる視点や、保育の質向上を図る。	12月に「保育造形研修大会」を実施することを目標とし、そこに向かって職員全体ですすんでいくことで、連帯感や支えあう姿が見られた。月に1回有識者の先生方と子どもの造形活動から子どもの姿をみて子ども理解や環境構成、援助の仕方などを一緒に考える機会を持つことで、保育者の子どもの見る視点や声掛け、環境構成などが変わっていった。子ども目線で保育を考えたり、発達の見通しをもって保育ができるようになってきた。

<p>3. 防犯設備や意識の向上</p> <p>社会情勢を鑑み、不審者への対応や園バスへの置き去り、安全管理等、防犯面のセキュリティを高めるとともに、職員や子どもへの安全・防犯意識の向上、啓蒙を行う。</p>	<p>防犯カメラや園バスに置き去り防止の装置、保育室にロールカーテンを取り付けた。その際に、職員間で防犯や安全について考える機会をもち、意識の向上に努めた。保育者一人ひとりが防犯や安全に対する意識が高まり、視点も広がったように感じる。</p>
--	---

#### 4. 5年度の目標や計画の総合的な評価結果

今年度は、「造形活動からみる子どもの姿を通して、子ども理解を深める」ことを主軸において取り組んだ。経験年数の少ない保育者が多く、大きな大会を見据えながら保育を進めていくことは、とても大変だったが、みんなで乗り越えていくことで、結束力も高まったように感じる。有識者の方々にご指導いただき、一緒に子ども理解や保育を考えることで、子ども達も前向きに、意欲的に活動する姿が見られ、新たな気づきや視点が見え、学びにつながった。

日々のスケジュールを具体的に記入していくことで、業務の見直しをもてた部分もあるが、慣れない作業でもあり、特に保育造形大会が終わるまでは、組み立てたスケジュール通りにすすめることは難しかった。しかし、継続的にスケジュールの可視化を進めていたので、作成にも慣れ、成果が少し感じられるようになってきた。

防犯面では、実際に防犯カメラやロールカーテンなど、ハード面でも防犯対策をし、安全研修も行ったことで、職員間でも、防犯・安全意識が高まり、それは子ども達にも広がっていったように感じる。

#### 5. 次年度の取り組むべき課題

今年の園のテーマ： Try！ Enjoy！ 強みを知ろう！ — チームも私も step up —

課題	具体的な取り組み方法
<p>1.子どもが真ん中に保育を考え、新たなアイデアも取り入れながら保育の質向上を図る</p> <p>a.行事や保育の見直し</p> <p>b.園内研修を通して子どもの育ちを捉え、子ども理解や保育の質向上に努める</p>	<p>昨年の子どもの姿を振り返り、職員間で話し合う場を設けて今年度の課題を考える。</p> <p>a. 音楽参観や運動会などの行事を見直し、方向性を決めていく。また、異年齢活動や新たに取り入れたい保育についても担当を決めて、実際に取り組んでいけるようにする</p> <p>b. 「食育」「園庭遊び」というテーマで他の保育者の保育も見ることが出来るよう園内研修を組む。そこから、保育や子ども理解を深めていく。</p>
<p>2.職員個人や学年の自己評価を充実させ、全体がステップアップしていける仕組みを作る</p>	<p>個人の自己評価の項目を簡潔に、わかりやすく具体的に記入できるようにし、職員間で共有できるように改善。年間目標を立て、共有しながら学期ごとに振り替えることで、自分の課題や目標、方法を明確化し、職員と共有することで認め合い、意欲的に取り組めるようにする。</p>
<p>3.労務環境の改善</p> <p>有休取得制度を見直す</p>	<p>法定より多く取得できている有給数を明確化し、調整して、自由取得の有給数を増やす。それに伴い有給の取得方法も変更し、誰もが自由有休を取得しやすくする。</p>

4. 園のアピールの強化	HPの充実に加え、インスタグラム、動画も取り入れる。また、地域の未就園児に向けたイベントも開催し、職員採用や新規入園希望者へのアピールを図り、園を知ってもらう。
--------------	--

## 6. 学校関係者評価

- ・保育後のスケジュールの掲示は、学年を越えて見合っている姿があり、業務計画の内容や時間を意識しながらすすめている様子が見られた。
- ・「保育造形研修大会」では、保育者の笑顔や子どもへの声掛けなど、穏やかでとてもよかった。子どもたちも、意欲的に生き生きと活動していた。
- ・運動会では、時間通りにすすめられ、こどもに無理なく行われていたように思う。運動会に向けての公園練習においては、ポイントを絞るなどの改善が必要だと感じる面も見られた。
- ・週1回の「おうちえん」での配信は、リアルな園での様子が見られてよい。家庭で親子の会話にもつながって、喜ばれている。
- ・ロールスクリーンは防犯時のみでなく行事や目隠しなどにもうまく活用されており、子どもの情緒の安定につながったり、集中できる環境となっていてよい。